

平成30年6月16日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02867

研究課題名(和文)九州地域の種痘伝播と地域医療の近代化に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic research on the spread of vaccination in the Kyushu area and the modernization of regional health care

研究代表者

青木 歳幸 (AOKI, TOSHIYUKI)

佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・研究員

研究者番号：60444866

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：3年間の種痘伝来科研において、1849年8月11日(嘉永2年6月23日)に到来した牛痘接種が九州各地へ伝播した様子が明らかになった。たとえば、佐賀藩では全額藩費による組織的な種痘を実施した。大村藩では、牛痘種子継料を全村から徴収し種痘を維持していた。中津藩では長崎から痘苗を得た民間医辛島正庵らが文久元年(1861)医学館を創設した。福岡藩領では、武谷祐之が、嘉永2年の末から種痘を始めた。小倉藩では、安政5年(1858)に再帰牛痘法を試みていた。九州諸藩における種痘普及により、洋式医学校の設立など地域医療の近代化をめぐる在村蘭方医の人的ネットワークが主要な役割を果たしていた実態が判明した。

研究成果の概要(英文)：After several failed attempts active vaccine finally arrived in Japan on 11th August 1849. From Nagasaki it quickly spread throughout Kyushu as many Japanese physicians were already well aware of the principles of inoculation. The Saga clan, for example, introduced a well-organized and completely financed vaccination policy. In Nakatsu well-informed physicians brought vaccine from Nagasaki. Two years later merchants financed the establishment of a medical house (igakkan) for further studies and vaccination. In the Fukuoka domain too, a clan physician took the initiative in 1849 until his activities were acknowledged and supported by the clan. During those early years vaccination was maintained by arm-to-arm transfer, In 1858 Kokura domain physicians experimented with the retrovaccination (cow-human-cow-human transfer) introduced by Galbiati and Troja in 1803. This deeply influenced the general acceptance of Western medicine and the establishment of regional health care structures.

研究分野：日本近世史

キーワード：種痘 牛痘 引痘方 檜林宗建 医学校 伊東玄朴 再帰牛痘法

1. 研究開始当初の背景

研究代表者青木歳幸は、基盤研究C「佐賀藩・中津藩・長州藩を軸とする西南諸藩の医学教育の研究」(24~26年度)において、佐賀・中津・萩各藩の西洋医学教育展開に、種痘普及とそのための人的ネットワークが主要な役割を果たしていた実態を解明した。が、他の九州諸藩・地域における種痘伝播の実態研究や、その人的ネットワークが地域医療の近代化にどう関わったのかの研究は不十分であった。西南諸藩の医学教育研究を進展させるためには、まず、九州諸地域の種痘伝播に関する基礎的研究が不可欠であると、本研究を着想した。

2. 研究の目的

九州諸地域の牛痘種法(種痘)の伝播と地域医療の近代化の解明を目的とする。

3. 研究の方法

(1)代表者および分担者は、九州諸藩領の種痘関係史料の各自収集調査および年2回の合同調査を実施。(2)人的ネットワークの探求のための各地域医師データ収集・整理。(3)諸藩における医学校の特質研究を重点的に行う。(4)研究者らで3年以内に九州全域を悉皆調査することは困難であるので、電子情報化の権利処理を済ませた資料からホームページで公開をし、関心をもつ内外の研究者からの新たな情報提供をえる共同研究ネットワークにより、本研究を進展させる。

4. 研究成果

(1)三年間の研究において多くの成果を得た。『研究報告書史料・九州の種痘』を刊行した。一般論考として『天然痘との闘いー九州の種痘』(岩田書院、2018.7)を準備した。
(2)嘉永2年(1849)6月23日(西暦1849年8月11日)に伝来した牛痘により、3日後の6月26日に最初の接種が檜林宗建の子建三郎らに行われ、それが活着したことを柴田方庵の日記などの日本側史料から確定できた。
(3)佐賀藩は、8月から引痘方を設置し、藩主の子淳一郎に8月22日に接種し、江戸へは10月2日にもたらした。
(4)佐賀藩では、安政5年(1858)に設立された好生館で全額藩費による組織的な種痘活動を実施し、安政6年(1859)から翌万延元年(1860)の1年間で松尾徳明という医師が1224人余に種痘を実施したことが判明した。
(5)長州藩の青木周弼は、彼の門人で当時長崎にいた阿部魯庵から、同年7月22日付の書簡を受け取り、種痘の準備をすすめ、9月21日に佐賀藩から分苗された。
(6)大村藩は、7月24日に痘苗を得て8月1日から藩主導で実施し、種痘苗保存確保のために「牛痘種子継料」を全村から徴収していた。
(7)中津藩では民間医辛島正庵らが長崎から

痘苗を得て、種痘普及のために文久元年(1861)に医学館を創設したこと、西屋形村の屋形養民は、中津の医学館から痘苗を得て村民への種痘を開始したこと、佐賀に赴いた儒医村上姑南は佐賀から分苗され、約300人に種痘を実施した。

(8)福岡藩領では郡医が早くに種痘活動を行い、武谷祐之は郡医から痘漿を分けてもらい、嘉永2年の末から種痘を始めた。武谷祐之の『牛痘告諭』を翻刻できた。

(9)小倉藩領でも郡医らが先に種痘を実施し、小倉城下職人町医師吉雄権六が種痘実施した触れが嘉永7年6月12日に出されている。同領では安政5年(1858)に牛痘を牛に種えてリフレッシュさせる再帰牛痘法を安政5年(1858)段階で郡医らが試みていた。

(10)天草では、上津深江村字太田に種痘山という種痘実施施設を創始し、大村藩の古田山種痘所での種痘心得のある医師を招き、人痘法での接種を続けていたが牛痘伝来後は牛痘による接種に転換した。

(11)宮崎では、若山牧水の祖父若山健海が嘉永3年ころから種痘を実施し、231人の非接種者の記載のある『種痘人名簿』が残されていることなどが明らかにできた。

(12)薩摩では藩医前田杏齋が嘉永2年に長崎から牛痘を得て実施した。その門人の黒江綱介は高岡郷(現宮崎市)で嘉永3年に種痘を実施した。黒江綱介と前田杏齋との種痘をめぐる書翰などを今回、翻刻できた。

(13)熊本藩では、藩医高橋春圃と寺倉秋堤が長崎で牛痘を学び種痘を実施し、明治3年の熊本医学校が設立には、寺倉秋堤に種痘術を教えた吉雄圭齋が招かれ、種痘普及を契機とする地域医療の近代化が始まったことなど、新しい事実が判明した。

(14)この基盤研究において、九州諸藩における種痘普及により、洋式医学校の設立など地域医療の近代化をめぐる在村蘭方医の人的ネットワークが主要な役割を果たしていた実態が判明した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計33件)

相川忠臣、天然痘について、『天然痘との闘いー九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp12-22

青木歳幸、人痘法の伝播。『天然痘との闘いー九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp23~38

W・ミヒェル、ヨーロッパ人が観た日本における天然痘、『天然痘との闘いー九州の種痘』、岩田書院、査読有、2018、pp39~50

青木歳幸、牛痘伝来前史、『天然痘との闘いー九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp51~58

青木歳幸、牛痘伝来再考、『天然痘との闘いー九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、

pp59～75

相川忠臣、長崎の種痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp78～92

山内勇輝、大村藩の種痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp93～108

金子信二、佐賀の痘瘡神、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp109～117、岩田書院

青木歳幸、佐賀藩の種痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp118～141

青木歳幸・保利亜夏里、多久領の種痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp142～160

小川亜弥子、長州藩の医学館と種痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp161～178

青木歳幸、小倉藩領の種痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp179～195

W.ミヒェル、武谷祐之と福岡藩における牛痘の導入、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp196～206

吉田洋一、久留米藩の医学、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp207～217

W.ミヒェル、中津藩における天然痘との闘い、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp218～244

大島明秀、熊本藩の治痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp245～254

海原亮、若山健海と宮崎の種痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp255～273

田村省三、薩摩の種痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp275～84

今城正広、薩摩藩領黒江家文書にみる種痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp285～301

青木歳幸、天草の種痘、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp302～312

①W.ミヒェル、人痘と牛痘の比較と評価、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、査読無、2018、pp313～328

②青木歳幸・保利亜夏里、佐賀藩支藩多久領種痘史料、『史料・九州の種痘』、報告書、査読無、2018、p7～16

③青木歳幸、野中家所蔵牛痘種法、『史料・九州の種痘』、報告書、査読無、2018、p17～25)

④大島明秀、村井琴山「痘瘡問答」(校訂版)、『史料・九州の種痘』、報告書、査読無、2018、p27～42

⑤鷺崎有紀、武谷祐之『牛痘告論』、『史料・九州の種痘』、報告書、査読無、2018、p43

～50)

⑥W.ミヒェル、中津藩辛島医家旧蔵の—種痘新説』、『史料・九州の種痘』、報告書、査読無、2018、p51～62)

⑦今城正宏、黒江家種痘資料、『史料・九州の種痘』、報告書、査読無、2018、p63～82

⑧海原亮「若山健海種痘資料(表)」、『史料・九州の種痘』、報告書、査読無、2018、p83～92

⑨青木歳幸、『御診察日記』にみる西洋医学治療、『佐賀学』、海鳥社、査読有2017、pp207～232

⑩W.ミヒェル、和蘭医薬学と長崎、日本薬史学会編集『薬学史事典』、4 査読有、2016、pp67～471(日本医療史、各論8)

⑪W.ミヒェル、江戸・明治期中津における書肆について、『学芸の諸相 I』、pp73～89、中津市、2016年

⑫海原亮、米沢市教育委員会『米沢藩医堀内家文書 解題篇・図版篇』、米沢市上杉博物館、査読無、2015、pp12～19

⑬青木歳幸、佐賀藩の医学史、上村病院二百五十年史』、査読無、2015、pp49～113

[学会発表](計7件)

青木歳幸、佐賀藩のモノづくり、2017.08.24、日本学会議九州・沖縄部会学術講演会、於佐賀大学

青木歳幸、野中烏犀圓と日本薬学史、2017.6.16、パリ万博と野中元右衛門シンポジウム、於パリ日仏会館

青木歳幸、永松東海と日本薬局方、2017.6.11、日本医史学会学術大会、於京都大学

青木歳幸、牛痘伝来をめぐる一考察、日本医史学会等六史学会合同例会、2016.12.16、於順天堂大学

青木歳幸、野中家の牛痘書、地域学シンポジウム・2016.11.27、於佐賀大学

青木歳幸、ISHIK2016・在来知歴史学国際シンポジウム、日本薬局方の先駆的活動、2016.10.23～26、於佐賀大学

青木歳幸、シーボルト没後一五〇年記念講演会招待講演、シーボルトとその門人、2016.09.10、於長崎歴史文化博物館

[図書](計4件)

青木歳幸、W.ミヒェル、大島明秀、『天然痘との闘い—九州の種痘』、岩田書院、2018、p344

青木歳幸ほか、『史料・九州の種痘』、報告書、佐賀大学、2018、p103

青木歳幸ほか、『佐賀医人伝』、佐賀新聞社、2017、p363

W.ミヒェル、Traditionelle Medizin in Japan Von der FRühzeit bis zur Gegerwert』、Müchen;Kiener Verlag.2017,p392

[産業財産権]

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
ブログ医学史の世界
[http://sagaigaku.sagafan.jp/
Medical](http://sagaigaku.sagafan.jp/Medical)
<http://aokireiro.wix.com/medical>
種痘伝来
[http://igakushi.com/wp/wp-admin/admin.p
hp?page=hpb_main](http://igakushi.com/wp/wp-admin/admin.php?page=hpb_main)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青木 歳幸 (AOKI Toshiyuki)
佐賀大学地域学歴史文化研究センター・研究
員

研究者番号：60444866

(2) 研究分担者

W・ミヒエル (Wolfgang Michel-Zaitso)
公益財団法人研医会・研究員

研究者番号：90619769

大島 明秀 (OSHIMA Akihide)
熊本県立大学文学部・准教授

研究者番号：50508786

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：

(4) 研究協力者

相川 忠臣 (AIKAWA Tadaomi)
今城 正広 (IMAJYO Masahiro)
海原 亮 UMIHARA Ryo)
小川 亜弥子 (OGAWA Ayako)
金子 信二 (KANEKO Shinji)
田村 省三 (TAMURA Shozo)
保利 亞夏里 (HORI Akari)
山内 勇輝 (YAMAUCHI Yuki)
吉田 洋一 (YOSHIDA Youichi)
鷺崎 有紀 (WASHIZAKI Yuki)